授業科目名	企業経営史Ｂ	大学名	作新学院大学
目区分	ＶＵ連携講座	開講時期	後期（9 月 21 日～1 月 31 日）
部・学科等	経営学部・経営学科	曜日	月曜日
必修・選択区分	選択	時限（時間）	4 時限目　14：40～16：10
標準対象年次	２～４年生	授業形態	講義
単位数	２単位	授業会場	学内講義室
担当教員名	那須野公人		
電話番号（代表者名）	028-667-7111 （作新学院大学）	e-mail アドレス	knasuno@sakushin-u.ac.jp
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	特に設けず、e-mail や電話で予約を取ってから、質問や相談に応じる。		

授業の概要

＜授業の目標及びねらい＞

現代の企業経営に大きな影響を与えた、アメリカの産業革命から20世紀初頭における、企業及び企業経営の歴史的発展過程について理解する。

＜前提とする知識・経験＞

特に必要としないが、できれば「企業経営史Ａ」を履修していることが望ましい。

授業計画欄のキーワードにもとづき、インターネット検索等を活用し、予備知識を持って授業に参加すること。ネット検索上の注意点等については、第 1 週の授業で説明する予定である。

＜授業内容と具体的な進め方＞

本講では、世界で最初に産業革命を成し遂げたイギリス経済衰退の原因を、企業経営との関連から明らかにすることからスタートし、後発国でありながら大量生産方式とビッグ・ビジネス（現代的巨大企業）を生み出すことによってイギリスを凌駕するに至った、アメリカ企業経営の特質の理解に重点を置く。

講義は、プレゼンテーションソフトとその配布資料を活用して行う。

また、授業の冒頭、前回授業の復習の程度を確認する意味で、毎回学生に発言を求める。復習に努めること。

＜授業計画＞

第 1 週　イギリスの衰退と後発資本主義国アメリカ・ドイツの台頭
第 2 週　イギリスの衰退についての諸見解
第 3 週　後発国の工業化に関する「ガーシェンクロン・モデル」
第 4 週　アメリカにおける大量生産体制の展開①（大量生産と互換性部品）
第 5 週　アメリカにおける大量生産体制の展開②（互換性生産方式とは）
第 6 週　アメリカにおける大量生産体制の展開③（大量生産の促進要因）
第 7 週　アメリカにおける大量生産体制の展開④（ﾍﾝﾘｰ・ﾌｫｰﾄﾞと「モデル T 」）
第 8 週　アメリカにおける大量生産体制の展開⑤（ヨーロッパにおける自動車生産との比較）
第 9 週　アメリカにおける大量生産体制の展開⑥（フォードの経営指導原理）
第 10 週　アメリカにおける大量生産体制の展開⑦（フォード・システム…生産の標準化）
第 11 週　アメリカにおける大量生産体制の展開⑧（フォード･システム…移動組立法）
第 12 週　アメリカにおける大量生産体制の展開⑨（フォード･システムの評価）
第 13 週　アメリカにおける大量生産体制の展開⑩（フォードの衰退と GM の台頭）
第 14 週　アメリカにおけるビッグ・ビジネスの形成①（アメリカにおける企業集中）
第 15 週　アメリカにおけるビッグ・ビジネスの形成②（反独占運動と独占禁止法の制定、企業合同とビッグ・ビジネス）
定期試験

＜教科書・参考書・教材と入手方法＞

・教科書は特に使用しない。
・参考文献
① 佐久間信夫他編『増補版　現代経営用語の基礎知識』学文社（学内で販売）
② 井上昭一編『現代アメリカ企業経営史』ミネルヴァ書房（図書館で参照）

＜成績評価法＞

定期試験の成績に、毎回提出する「今日の授業のまとめ」（授業の要約・意見・感想・質問等を書いたもの）の評価を加味して、最終的な成績を決定する。

＜教員からのメッセージ＞

意欲的な学生の受講を希望します。